

The social welfare in OSAKA



# 大阪の 社会福祉

2023年9月

820



社会福祉法 大阪市社会福祉協議会

<https://www.osaka-sishakyo.jp>



## こどものパワーで元気と笑顔があふれる活動に

2面

淀川区

元気いっぱい！笑顔あふれる！  
こどもがつくりあげるスマイルカフェ



### HB

人口の偏りが日本の未来を不透明にしている。人口が減っている。人口が減っている。人口が減っている。

いる地域でのローカル線の廃線やバス路線の廃止がニュースになる▼市内でも人口の偏りが激しく、御堂筋線は2、3分に1本走っているのに、私が利用するシティバスは1時間に1本しかない路線である▼先日のお盆の日、平日ダイヤに間に合うようにバス停に行ったのに、お盆期間は土曜ダイヤだった。歩いていけない距離ではないが、結局1時間弱バス停で待つことになった▼昔、京都の田舎に暮らしていたことがある。その地域のJR線も1時間に1本ペースだったが、遅れそうになってもほとんどの人が走ろうともしないで、ゆっくり次の列車を待っていた▼私はいつも駅前のうどん屋で、きつねうどんとワンカップの酒を頼んで、店のおばちゃんと楽しく会話して次の列車を待った。それが苦痛でもなく、ある意味楽しみでもあった▼合わせて500円もしない金額もおばちゃんとの会話も魅力的だった。そして何より、周囲のだれもが慌てないで、ゆったりしていたことが良かったのだろう▼1時間、ゆったりと何もしない時間を今は忘れてみる。(石)

# 元気いっぱい！笑顔あふれる！ こどもがつくりあげるスマイルカフェ



## こどもが主体となって、 カフェの運営を考える

8月5日、淀川区社協で「スマイルカフェ」が開催されました。運営をしているのは区内に住むこども（小中学生）です。

カフェの運営を通じ、こどもたちが地域の多様な人との関わりから成長する力を育み、福祉教育とキャリア教育につながるべきとの思いで区社協が主催しています。

令和5年6月から毎月1回、土曜日の午後1時半から3時まで開催しています。どなたが来てでも楽しめるカフェにするた



▲「いつも楽しい!!」と運営しているこどもたち

### 開催までの流れ

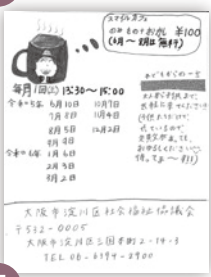
#### ①こども会議開催

こども、区社協職員で開催当日のメニューやカフェで何がしたいか、役割分担などを検討。こどもたちが主体的に意見を出し合えるよう区社協職員が補助しています。



#### ②チラシの作成

「たくさんの方に参加してほしい」とこどもたちが作成。こどもたちが描いたイラストや一言があり、かわいいチラシです。



#### ③スマイルカフェ当日

こどもたちがホール・キッチンスタッフを担当。緊張しながらもがんばって参加者に自分たちで注文をとったり、飲み物運びました。



## 運営側、参加側にとっても居場所づくり

当日は、近隣地域の掲示板や区社協の公式LINE、Face

め、毎月1回「こども会議」を実施し、前回のふりかえりや反省を活かして当日提供するメニュー、役割分担、今後、どのようなカフェにしていきたいかなどをこどもたちが中心になって話し合っています。

まずは接客やカフェのながれを学べるよう8月までお試しか催として無料でしたが、9月からは有料で提供するので、こどもたちがお金の管理もしていきます。

book、区社協で実施しているオレンジカフェ、こどもたちの口コミなどで周知していたこともあり、たくさんの方の参加がありました。親子連れや高齢者、外国につながる市民の参加もあり、多世代交流や国際交流の機会にもなりました。話しやすい雰囲気になっており、参加者同士がつながる場、また、社協職員もいるので、暮らしに関する困りごとを相談できる場にもなっていました。活動者として、学生のボランティアも関わっており、こどもたちは年齢が近いお兄さんお姉さんと一緒に活動していることで、安心して楽しみながら運営していました。

## 経験していくこと での成長

開催当初は、恥ずかしさもあつてか参加者へ注文を取りに行くことができないこどももいましたが、回数を重ねるなかで段々と自分から話しかけることができるようになってきました。また、カフェの運営を通して自分たちでできることや配慮



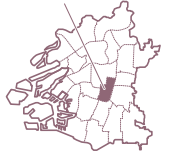
▲エプロンを着用し、カフェ店員を頑張りました

### 運営しているこどもたちの感想

- 最初は緊張したけど、やっていくうちに慣れてきて、お話できたりもするから、すごく楽しい!
- コーヒーなどの飲み物を入れたり、洗ったりするのが大変だった。
- 9月からお金の計算もしないといけないから不安。みんなで協力してしたい。
- 飲み物だけでなく、食べ物も出して、もっとたくさんの人に参加してほしい。

することなどを考える機会にもなっています。参加者からは、「こどもたちが一生懸命がんばっている姿を見て、こちらも元気をもらえている」「ワイワイとした空間なので、自然と楽しく参加できている」などの声がありました。区社協の前田歩美地域支援担当主事は、「こどもたちが主役になり、地域の方々の居場所を一緒に作りたいと考え、スマイルカフェの実施に至りました。こどもたちの反応に不安はありませんでしたが、事前の準備から当日の運営までみんなで力を合わせて取り組み、地域の方々に喜んでもらうとう一生懸命な姿を見て、こどもが持つさまざまな力に感銘を受けました。今後は、拠点を区社協のみならず地域に広げていきたいです」と話しました。

# 男性による男性の居場所活動 ビールやコーヒーで至福のひとときを 〜昭和男のロマン喫茶〜



**高年齢男性が  
気軽に集える場と  
なるように**

を飲みながら地域の男性が集い、懐かしい歌を歌って思い出話にも花を咲かせ、盛りあがりしました。

**きっかけは地域別  
ケア会議で課題に  
あがったことから**

天王寺区の聖和地域では、8月12日に今年度2回目の男性を対象としたサロン「昭和男のロマン喫茶」が開催されました。サロンは午後2時から4時まで実施され、地区社協の東浦孝次会長・連合振興町の堀出悟生会長・地域活動協議会の原田照久会長をはじめとした、地域住民である男性スタッフが淹れたコーヒーや、サロン活動では提供されることが珍しい缶ビール



▲受付やウェイトーを男性スタッフで分担

この取組みは、令和元年度に聖和地域別ケア会議の定例会（地域包括支援センターが主催し、住民、専門職や行政が一緒になって地域課題を検討する会議）のなかで、「高年齢男性の孤立や閉じこもり」が話題にあがり、その対策として「地域のふれあい喫茶に参加していない男性が参加できるような集まりができたらいいのではないか」「男性がスタッフの方が参加しやすい男性もいるかもしれない」と話題に出ることがきっかけでした。

令和元年9月に実行委員会を立上げ、男性高齢者の孤立や閉じこもりを防ぐ取組みとして、コーヒーやビールなどを飲みながら男性同士気兼ねなく語り合える場づくりに向けて話し合いを重ねました。



▲プレオープンの時の様子

そして、令和元年11月にプレオープンとして、日頃からふれあい喫茶を運営している女性スタッフの協力を得ながら開催しました。40人以上の参加があり、男性コーラスもゲストに迎えて参加した方々と合唱し、大盛況でした。

**機運が高まっていた  
なかでの  
コロナ禍の影響**

プレオープンの経験をふまえ、開催に向けて準備を着々とすすめていきましたが、コロナ禍



▲聖和地域に住む男性の皆さん！気軽に参加ください（一番右：堀出悟生会長）

の影響を受け、活動の中止を余儀なくされました。約3年間の休止を経て、感染症の5類移行に伴い、コロナ禍でつながりが減っている今だからこそこの取組みが必要ではないかとなり、会議を重ね、今年5月に第1回目を開催したところ、大変盛況で、8月にも第2回目を実施することとなりました。

第2回目を開催して、代表の堀出会長は「今回（2回目）は夏で気温がかなり高かったことやお盆が重なっていたこともあったのか、5月開催時に比べて参加者が少なかった。それでも、参加した皆さんと一緒に歌を歌って楽しいひと時を過ごせたので、実施した甲斐があった。前回は、今回も参加した方から好評だったので、今後は3か月1回程度開催を継続できるよ

## 参加者・活動者の声

- 男性だけが対象で、ビールが出ると聞き、1回参加してみようと思ったことがきっかけでした。（参加者）
- 懐かしい歌をみんなと歌えて楽しかった。また、参加した方とお話もでき、楽しかったので、次回も楽しみです。（参加者）
- これまではウェイトーなんてしたことなかったので、新しいことができ、すごく楽しい。（活動者）

う取り組んでいきたい。まだつながりがなく孤立・閉じこもり状態の男性高齢者にも参加いただけるよう、引き続き呼びかけ、この活動を知ってもらえるよう働きかけたい」と話しました。

「昭和男のロマン喫茶」に携わった区社協の野田美津子地域包括支援担当係長は、「閉じこもりがちな男性高齢者にふれあい喫茶などを紹介しても、女性ばかりで居心地が悪い、話し相手がいらない、といった理由でなかなか参加につながらないといった課題を抱えていました。昭和男のロマン喫茶は、そうした課題に地域のみなさんが向き合い生まれました。この大切な社交の場を必要な方に届けられるよう、また、同じような課題を抱える他の地域へもこのような取組みを広げていきたいです」と話しました。

# 福祉の今を知る！ 大阪市内の福祉活動の実践報告会

大阪市社会福祉研修・情報センターは7月20日、「福祉の今を知る！大阪市内の福祉活動の実践報告会」同心会研究奨励賞・研究努力賞・受賞論文より」を開催しました。

これらの研究論文が掲載された「大阪市社会福祉研究」は大阪市社会福祉研修・情報センターにおいて、社会福祉に携わる団体や個人がおこなった研究活動の成果を募集し、とりまとめたものです。当日は、75人が参加し、基調講演に続き、同研究誌45号（令和4年12月発行）に掲載され受賞した実践者の報告がありました。

## 同心会とは？

大阪市における社会福祉に関する研究および実践活動の奨励を目的として、昭和58年12月に発足。同会では、研究誌「大阪市社会福祉研究」に掲載された研究論文から優秀作品を選び、「研究奨励賞」などを授与しています。

## 基調講演

### 『ひとりにならない』支援—伴走型支援と希望のまち—

（講師：認定NPO法人抱樞／理事長 奥田知志さん）



▲奥田知志さん

認定NPO法人抱樞理事長の奥田知志さんからは「伴走型支援とは何か？『ひとりにならない』希望のまちをつくる」の話がありました。奥田さんは学生時代から始めた「ホームレス支援」を継続し、北九州市で3700人以上のホームレスの人々を自立へと導いてきました。

奥田さんは関わってきた伴走型支援事例を基にしながら、「支援においては、『この人には何が必要か、誰が必要か』を考え、ひとりにしないようにすることが重要です。人とのつながりは

生きる意味・動機につながります。『横の成長』（人とのつながりをつくり、広げることを手助けをすることが伴走型支援だと思います）」と話しました。

ほかに、20年引きこもりだった人が2年間の支援期間を経て就職へとつながったケースについての話がありました。その人の両親や周囲の人は就労が決まった際によかったとなりましたが、奥田さんは、20年間引きこもっていた方が、2年の支援で他人と協働することや毎日仕事に行くことで出てくる新しい問題に着目していました。「就職できたら支援は終了でなく、本当の意味での支援する人の人生の目的を考えると、その後も暮らしていくため、人とのつながりをもち続けることが重要です、社会的孤立問題の解決には、伴走型支援が大切である」と話しました。

奥田さんからは、人との関係がなくなると言葉がなくなり、人とのつながりが言葉を生む、その人が生きている物語は人との関わりの中で生まれるということ。名前のある個人として自分の物語を生きたためには「家族機能の社会化」に対応できる互助的な地域共生社会が必要であるとの話がありました。

「長期層」「再流入層」「短期層」の3つに分類して実施した結果、各層ごとに特徴があることがわかりました。

「長期層」の方は、安定した支え合いの軸があり、食、職が確保されていることから、現在の社会的つながりを維持することが可能な居宅に移行すること、「再流入層」は、施設やシェルター、生活保護などの福祉経験が多いが長続きせず、居宅生活の夢をあきらめかけていたことから、まずは無条件で居宅を提供し、居宅生活を継続する支援を実施したのち、就労支援に移行すること、「短期層」は若年者が多く個室支援を希望することから、集団生活を基本とする施設支援を経ることなく居宅を提供し、そこを拠点に積極的な就労支援を実施するという方向性を導きました。

いずれにしても、ホームレス支援は、「ホームあり」にすることが目標であり、ホームは箱モノとしての家であり、かつ、心のホームであることから、単に居宅の提供にとどまらず、地域とのつながりづくり、地域における居場所づくりに力を入れ、自律的な生活が手に入るよう支援に取り組むことの重要性を報告しました。

## 報告① 路上生活の次はどこに行ったらよいか

（報告者）大阪市福祉局自立支援課 向井 順子さん

### 研究奨励賞



▲向井順子さん

令和5年1月現在、大阪市内では841人のホームレスが確認されており、そのうちの約3割にあたる250人に実施した生活実態調査の分析と、分析に基づく今後のホームレス支援の方向性を報告しました。

## 報告②

# 地域における住民による有償助け合い活動～調査から地域の取り組みへ戦略的な区社協の実践～

(報告者) 大阪市福島区社協 井上 佳奈さん、大阪市西区社協 角田 達哉さん、大阪市平野区社協 尾方 俊祐さん

※井上さんは令和5年3月、角田さんは令和4年3月まで平野区社協所属

研究奨励賞



▲左から尾方俊祐さん、角田達哉さん、井上佳奈さん

平野区瓜破北地域をモデル地域として実施してきた区内における有償による助け合い活動について、平野区社協が住民とともに学習と検討を重ね、協働してきた約10年にわたるプロセスの発表がありました。

平成28年の第1層生活支援コーディネート（生活支援体制整備事業）の配置を契機とし、住民を対象とした生活実態調査「平野区ふれあい・ささえ愛アンケート調査」を実施しました。調査結果をふまえて有償活動プロジェクトチーム（協議体）を発足し、「新たな担い手の発掘」「ちょっとした暮らしの困りごとを住民同士で助け合う有償による助け合い活動」について検討してきました。平成30年には、有償助け合い活動を取り組むにあたって、すでに活動していた他市・区の先行事例からヒントを得ながら、平野区ではモデル地域を選定し、展開する方法を決定しました。モデル地域である瓜破北地域の会長に、「地域活動者が高齢化しているからこそ、地域全体で取り組む必要がある」と前向きな気持ちで参画をいただき、令和元年10月から「瓜破北たすけあい活動の会」を開始しました。

## 報告③

# 介護助手（アシスタントワーカー）の導入による介護現場の業務改善等に向けた取り組み

～「介護の職場 担い手創出事業」にかかるモデル事業 実践報告～

(報告者) 大阪市社会福祉研修・情報センター 砂田知美さん

研究努力賞



▲砂田知美さん

「アシスタントワーカーを単に人材不足を埋める

最後は、「介護の職場 担い手創出事業」にかかる2年間のモデル事業についての実践報告がありました。事業実施の背景としては、厚生労働省の第8期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数が2019年度の約211万人から2040年度には約280万人となり、

約69万人を追加で確保する必要があると推計値が出されるなどの介護人材不足の現状があり、全国的に介護人材確保に向けた取り組みが進められ、大阪府においても当事業に取り組むこととしました。この事業では、専門のアドバイザーによる集合研修や個別支援を受けながら、現在おこなっている介護職員の業務の洗い出しと仕分け、業務マニュアルの作成、OJTの仕組みの整備などの受入準備をおこない、アシスタントワーカーを採用します。モデル事業には、令和2年度に3施設、令和3年度は6施設が取り組み、各施設へアンケート調査をおこなったところ、「適切な休憩が取れるようになった」「心にゆとりや余裕ができた」との項目に大きな効果が見られ、アシスタントワーカー導入により、業務時間中の介護職員の時間的、精神的なゆとりや余裕につながったということがわかります。また、「利用者と接する時間が増えた」の項目でも顕著な効果が見られ、介護職員が利用者支援に重点を置いて取り組むことができる環境に近づくことができている結果ということがいえます。

### アシスタントワーカーとは

介護施設などにおいて掃除や食事の片付け、洗濯、物品の補充など、直接介助に携わらない業務を担当する「介護職場の人材」です。

各報告の後、コーディネーターを務めた国際医療福祉大学大学院教授・大阪市立大学名誉教授の白澤政和先生が、それぞれの実践や研究の評価を総括しました。「3つの報告を聞いて、最終的には利用者がどう受け止めるかが大事である。そのためには、利用者が主体的に対応できる活動をする必要がある。3つとも優れた実践だったが、それぞれ課題をもっており、今後どう展開していくのか、検討し発展させてほしい」と、今後の地域福祉の活性化に期待を込めて、応援のメッセージを送りました。

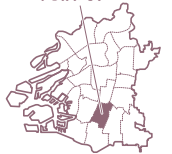


▲コーディネーターを務めた白澤先生

雑用係やお手伝いとしてではなく、介護職員のチームの一員として位置づけ連携しながら業務を進める仕組みを確立する必要があると考えています。また、現場で働く介護職員が、専門性を発揮し、やりがいや誇りをもって働き続けることができる環境づくりを進めていきたい」とまとめました。

# ボランティア活動の高齢化といきがいづくりを考える 「あなたの『好き』を地域の二歩につなげよう」

阿倍野区



みんなの声から  
生まれた  
地域福祉セミナー

## 「あなたの『好き』を地域の二歩につなげよう」が、区社協・生活支援コーディネーター（愛称：ちいきつながり応援隊）の主催で、8月7日に阿倍野区役所で開かれました。

「あなたの『好き』を地域の二歩につなげよう」が、区社協・生活支援コーディネーター（愛称：ちいきつながり応援隊）の主催で、8月7日に阿倍野区役所で開かれました。

昨年度開催した第2層協議体（住民と専門職が一緒になって地域課題を考える会議）で地域福祉活動者から「活動者の高齢化や担い手不足を感じており、数年後もこの活動を続けていけるか不安」という声がたくさん聞かれたことがきっかけで企画されたものです。申込み不要で気軽に参加しやすいプログラムとし、町会の班回覧や区役所、図書館などにも掲示して幅広く周知したところ、当日は、57人の参加がありました。

ボランティア活動は、  
おもしろい

セミナーは2部制で、第1部は講師として招いた、ふくしと教育の実践研究所SOLA主催



▲手話を教わりながら傾聴する参加者の皆さん

「ボランティア活動の今日の意義も学ぶ」「ボランティアは、意義の発掘！？」「地域福祉でできること、地域福祉の課題をどう解決するか、どう取り組むか、どう連携するか、どう連携するかなど」

幸・新崎国広さんによる基調講演がありました。45年にわたり関わってきた福祉活動での体験談やボランティアの面白さ、役割などについて、時おり手話も交えながら楽しく話されました。

最初は「温故知新とイノベーション」をキーワードに、Withコロナ社会で対応できるボランティア活動についての話があり、その後も、ボランティア活動は「共感と笑顔が原動力」「健

ボランティアで  
つながる笑顔の輪

康づくり、生きがいづくり」「広い意味での自立の応援団」など、ポジティブなキーワードが挙げられ、活動に対して前向きになれる気持ちもありました。参加者は熱心に聞き入っていて、予定時間はあつという間に終了しました。

第2部は、自分たちで会を立ち上げた3グループから、その経緯や活動内容など、区社協職員によるインタビュー形式の事例発表がありました。「やっていてうれしかったこと



▲事例発表（左から：区社協・竹内俊恵第2層生活支援コーディネーター、「スペースゆう」西井明子さん、「長池りべん倶楽部」速田勝雄さん、「スマホ倶楽部」の山内博之さん）

になって喜んでくれた」など、思いをこめて答えていました。

また、事例発表の後は、前後の席で小グループを作り、自由におしゃべりするコミュニケーションタイムが設けられました。参加者からは「普段、他地域の人と情報交換をする機会がないのでよかった」「ボランティア活動のおもしろさを再認識でき、やる気がでた」「実際にボランティアをしている人の声が聞けてよかった」「自分もやってみようかなと思った」などの声があがっていました。

ボランティアは、新たな  
楽しみを見つける場

最後は、セミナーのまとめとして再び新崎さんが登壇。1部では話しきれなかった「アクティブシニア」についての話も加えられました。「アクティブシニアとは、ここにいる皆さんのことです。活動的、積極的な高齢者が社会の中で増えていくことが地域づくりを推進する。ボランティアの高齢化は決して悪いことではなく、ボランティアが高齢化することでその活動がいきがい化し、健康づくりにもつながっている」とメッセージを送りました。

区社協の大西加奈子第1層生活支援コーディネーターは、セミナー終了後「今回の参加者も、地域で活動している人も、多くはシニア世代です。地域の活動者が不足していると悩むよりも、今、活動している人が改めて楽しみを見つけ、長く続けていけるように後押しをしたいと思います。改めて、生活支援コーディネーターとして、住民同士が情報交換できる場をつくるのが、やる気の継続支援につながる」と再認識できました。今後、もう少し身近なエリアの地域福祉活動について考える際のヒントにもしていきたいです」とふりかえりました。

# 北御堂と「災害時における施設利用に関する協定」を締結

市社協は、北御堂（浄土真宗本願寺派本願寺津村別院）と「災害時における施設利用に関する協定」を8月8日に締結しました。

市社協と北御堂は、令和元年から北御堂が実施するイベントの周知協力や、市社協が実施している地域ごども支援ネットワーク事業、ボランティアコーディネート、インেশション研修の会場提供など、お互いに協力し合い、日頃から顔の見える関係性を構築してきました。

近年、頻発する地震や地球温暖化の影響に伴う集中豪雨が年々増加する傾向にあり、全国のどこで自然災害が発生してもおかしくない状況のなか、大阪市内で大規模な災害が発生した場合に備え、このたび「災害時における施設利用に関する協定」を締結することとなりました。

この協定では、被災住民へのきめ細かな支援、被災地の迅速な復旧・復興に寄与することを目的とした北御堂の施設利用に関して、被災地でのボ

ランティア活動のため、災害時に届けられる多くの資機材の備蓄・ストックヤードの設置場所の提供や、ボランティアの需給調整などに係る災害支援拠点の設置場所の提供などを協力いただける内容となっています。

協定締結を機に、今後も一層、災害時のみならず、平時からの情報などの共有、災害時の連絡体制など連携を図っていきます。



▲市社協・浅井事務局長と北御堂・光岡輪番



▲中央区本町に所在し、御堂筋に面する北御堂



▲北御堂（本願寺津村別院）ホームページより転載  
<https://www.kitamido.or.jp/>

## 風をよむ

### 成年後見制度と意思決定支援の今後

大阪公立大学大学院生活科学研究科 講師 鶴浦直子

令和4年6月から成年後見制度の在り方に関する研究会が開催されている。成年後見制度に関しては、申立て手続きの煩雑さや費用の問題、そして、成年後見人などが選任されると、本人は自分の判断だけで法律行為を行うことができなくなるなどの制限が問題として指摘されてきた。この研究会では、これらを踏まえて、判断能力が不十分な人のための成年後見制度はどうあるべきか、新たな枠組みの検討がなされている。

まだ検討中であるため、今後の展開を注視していく必要があるが、検討されているポイントとしては、誰かが代わりに判断するのではなく、あくまでも本人の意思決定を支援することを第一とすること、そして、極力、本人に対する制限を少なくすることであるといえる。成年後見制度は、原則、本人が亡くなるときまでの利用となっているが、今後は、必要な時に必要な期間に限り利用する制度へと

改められる可能性もある。このようなシフトチェンジを行うことになると、成年後見人などの関わりは、限定的なものへと変化していくことが予想される。また、本人の意思決定支援をより重視していく方向へと転換するとすれば、成年後見制度の枠組みとは別に、本人の立場に立ち続け、本人の伴走者として意思決定を支える仕組みなどの充実が必要になると考える。

意思決定支援は、ポイント、ポイントで本人と関わればできるものでもなく、本人の様々な気持ちや考え、嗜好などを普段から知るべく関わりをもつことが大切である。また、本人が自分の気持ちを伝えるためには、それを伝えてもらえるだけの関係構築ができていなければならない。成年後見制度の今後については、意思決定支援のあり方ともセットで議論し、判断能力が不十分であっても安心して暮らせる社会を追求していく必要がある。

# 大阪市社会福祉大会「講演&落語」

小学生向けの落語会「子どもだけ寄席」など、落語家として独自の活動をする傍ら、B型肝炎の患者の方々に寄り添う活動や「子どもを中心とした地域づくり」や担い手不足の問題に関心をもって地域活動にも取り組むなど、落語以外の場面でも幅広く活躍されています。

今回の講演では「共育」をキーワードに、地域活動についてお話いただき、最後は落語で楽しく締めくくります♪

令和5年

日時

10月20日(金)

受付開始時間 14時30分～

※講演&落語の開始は14時45分頃(60分間)を予定しておりますが、先に開催の式典終了時間により、時間が多少前後しますのでご了承ください。

場所

大阪国際交流センター 大ホール

大阪市天王寺区上本町8-2-6  
近鉄線「大阪上本町」駅14番出口から徒歩6分  
地下鉄「谷町九丁目」駅10番出口から徒歩8分

講演

“共育”が生む、きずな  
～コロナを乗り越えて～

〈落語(お楽しみ一席)〉 桂 福丸氏(落語家)

申込方法

本会ホームページ  
申込フォーム



問合せ

大阪市社会福祉協議会  
総務課  
06-6765-5601



落語家  
桂 福丸氏

市社協

## 第2期大阪市地域福祉活動推進計画の 3年目の進捗報告と 第3期計画について検討

—大阪市地域福祉活動推進委員会—

市社協は8月3日に、第48回大阪市地域福祉活動推進委員会を開催しました。同委員会は、区社協や民生委員・児童委員の代表者のほか、地域福祉活動やボランティア・市民活動、社会福祉施設、企業等の関係者、学識経験者など12人の委員で構成しています。

市社協では、令和3年3月に「第2期 大阪市地域福祉活動推進計画」を策定し、現在3年計画の3年目を迎えており、今回は、第2期計画のふりかえりと、令和6年度からの第3期計画策定の基本的な方向性についてご意見をうかがいました。

委員からは、計画に掲げている取組みの「評価」のあり方のほか、くらしをささえる「相談支援」とつながりをつくる「地域づくり」の双方から、参加支援をすすめる必要性などについて意見が交わされました。福祉教育についても議論され、地域や学生、施設などが一緒に協働して実施することで新たな活動の展開にもつながる、また、新たな担い手へのアプローチにもなることなどが話し合われました。



▲各委員と第2期計画のふりかえり、第3期計画の策定に向けて検討

## 大阪府共同募金会からのお知らせ

### 令和5年度NHK歳末たすけあい特別助成申請受付

年末・年始の時期に特有な福祉ニーズや生活困難者等のニーズに応える事業に対する助成申請を受付けています。

申請書受付期間 令和5年9月29日(金)まで(必着)

### 寄付金助成施設などの訪問

～あなたの寄付金が役立てられているところを訪問しませんか～  
大阪府共同募金会では、毎年、役員・評議員等で構成する調査指導部会の活動として、助成を受けた社会福祉協議会、社会福祉施設・団体を訪問し、共同募金の活用状況の調査、住民への公表等の指導を行っています。赤い羽根データベース「はねつと」で大阪を含めた全国の助成事業をご紹介しますが、寄付者である府民のみならずにもっと共同募金が身近で役立てていることを知っていただこうと、この調査指導部会の活動に同行参加される方を募集しています。

申し込み受付期間 令和5年9月29日(金)まで(必着)

詳しくは、大阪府共同募金会ホームページ <http://www.akaihane-osaka.or.jp>をご覧ください。

大阪府共同募金会  
TEL:06-6762-8717 FAX:06-6762-8718  
Eメール: ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK



www.ms-ins.com